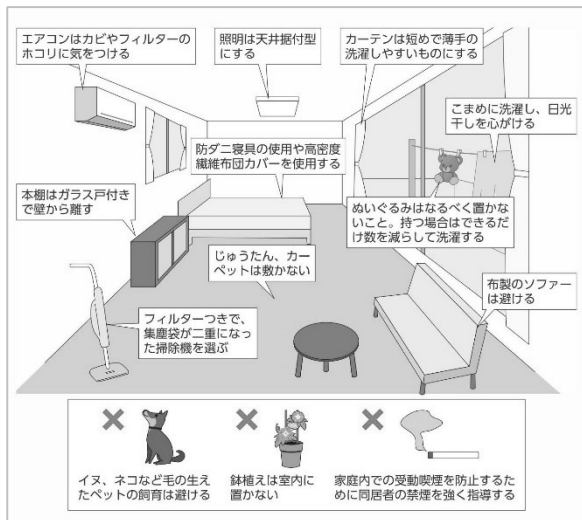


参考資料

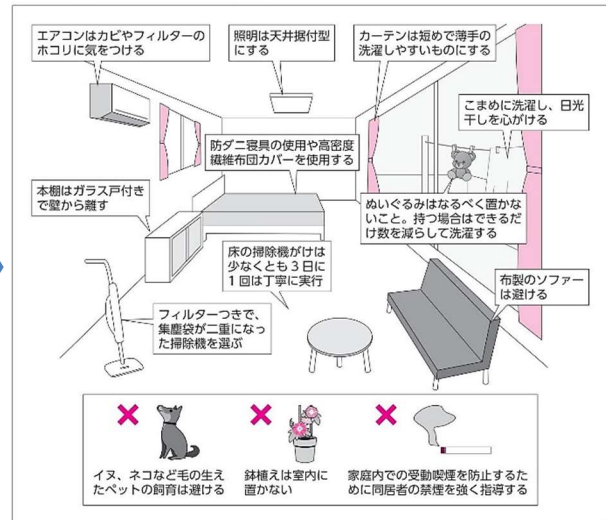
日本小児アレルギー学会発行の「小児気管支喘息治療・管理ガイドライン」では、喘息患者に向けて、アレルギー回避のための環境整備のポイントを紹介しています。

2023年11月発行の最新版においては、前回版まで推奨していた「じゅうたん、カーペットは敷かない」を削除し、代わって「床の掃除機がけは少なくとも3日に1回は丁寧に実行」することを勧めています。（下記イラストの中央部分をご覧ください）

これまでのガイドラインでは
「じゅうたん、カーペットは敷かない」



最新のガイドラインでは
「床の掃除機がけは少なくとも3日に1回は丁寧に実行」



カーペットの「ハウスダスト舞い上がり抑制効果」の実証実験について

■実験実施機関：地方独立行政法人大阪産業技術研究所（実験当時は地方独立行政法人大阪府立産業技術総合研究所）

■テーマ：床材による粉じんの舞い上がり抑制効果に関する研究（受託研究制度により実施）

■目的：床材をタッピングした時の発じん量を測定することにより、床材による粉じん（粉体）の飛散、舞い上がりの抑制効果を実験的に検討する。

■実験方法：

試料…タイルカーペット（ナイロン糸／ループパイル）、フローリング材の2種類

粉体…JIS Z 8901「試験用粉体」15種（混合粉体）※模擬ハウスダストとして使用

装置…クリーンブース、パーティクルカウンター

測定環境…温度20℃、湿度65% RH

手順…

- ① 試料に試験用粉体 1.0gを均一散布し、7kgのローラーにより試料に粉体を固着させた。
- ② タッピングマシン（軽量床衝撃音発生器）を用いて粉体を飛散、舞い上がらせた。
- ③ 5分後、タッピングマシンを停止し、床から50cm、140cmの位置の飛散粉体量をパーティクルカウンター（3分間吸引）で測定した。

■結果：床上140cmでの粉体舞い上がり量は、フローリングが約5万2千個/m³に対し、カーペットは約5千個/m³、床上50cmではフローリングが約4万個/m³に対しカーペットは約3千個/m³であった。カーペットでの舞い上がり量は、フローリングの約10分の1であることが分かった。

